

④稼働を始めた破碎機(写真奥)。処理能力は従来比約2・8倍⑤新設した機械式選別機。高精度の選別により混合廃棄物のリサイクルを可能にする



## 新型破碎機と選別機稼働

### 混合廃棄物リサイクル

湖南リサイクルセンター(滋賀県湖南市、西村忠浩社長)は、廃プラスチックや紙・木くずといった混合廃棄物の破碎機と、機械式選別機の稼働を始めた。産業廃棄物の搬入量で、現状の月間1000〜1200トンを早期に同1500〜2000トンに引き上げる計画。

老朽化した破碎機を新型に更新し、処理能力は従来比約2・8倍の1日当たり564・7トンに拡大。新設した機械式選別機では、これまで人海戦術だった選別作業を一部機

#### 湖南リサイクルセンター

械化した。混合廃棄物を振動や風力などで機械的に選別。より精度の高い選別が可能となり、これまで埋め立て・焼却処分するしかなかった混合廃棄物を石炭の代替燃料やセメント原燃料などにリサイクルできるようになる。

滋賀県が運営する産業廃棄物の管理型最終処分「クリンセンター滋賀」(滋賀県甲賀市)が2023年10月に閉鎖されることを背景に、処理能力・リサイクル率の向上などを目指して新設を導入した。(大津)